

第1回花見川区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日時：平成16年7月24日（土）午後2時～4時

場所：花見川区役所 2階講堂

出席委員：25名中19名出席

事務局：花見川区 山形区長
保健福祉総務課 片岡参事、皆川主幹、高須主査、
和田副主査、仙田主事、西森主事
保健福祉センター整備室 安井主任主事
子ども家庭福祉課 松田副主査
花見川区福祉事務所 大八木副主査、門馬主任主事、重原主事
犢橋保健センター 阿部主任保健師

関係者：2名

傍聴人：0名

会議内容

次第に従い、開会后、山形花見川区長が挨拶。

その後各委員が自己紹介を行った。

自己紹介後、議題に移った。

< 議題 >

(1) 会議の公開について

委員に区策定委員会の公開・記録についての意見を聴いた。

公開・記録についての異議はなかったので、今後の区策定委員会は公開し、記録又内容についてはインターネット等を通じて市民に周知する。

(2) 各地区フォーラムの取組状況について

資料を基に各地区フォーラム委員長が第3回地区フォーラムまでの課題の検討について報告した。

「犢橋・206・こてはし台地区フォーラム」

当地区は八千代市、佐倉市、四街道市に接する花見川区の東北部に位

置している。4フォーラムの中で、面積は最も大きく人口は最も少ないところで人口密度が低いところとなっている。

これまでの取組み状況として、3回の地区フォーラムを開催し、問題点の抽出、キーワード別整理を行った。

キーワードについては、A・Bグループ全部で7つに整理した。

キーワード(生活課題)一覧表に基づき、キーワード別の問題点を説明、まとめると大きく5点になると思われる。

交通問題が大きなウエイト

陸の孤島、バス路線の廃止、高齢化に伴いマイカー運転ができない。

身近な生活支援・自立支援

助け合う住民が少ない。

障害者への理解

周囲の理解が進んでいない。

少子化の影響で集団遊びが少ない

子どもたちに社会的ルールがまだまだ定着していない。

高齢者の外出がしにくい

バリアフリー、付添いの不足

「検見川・花園・朝日ヶ丘地区フォーラム」

地域の力でやっていくということがどのようにまとまっていくのか、心配している。誰がまとめて、問題点を整理、地域の中に実際に動く組織化をどのようにしていくか。様々な問題点がでるが、地域での繋がりとしてどういう仕組みを考えていくのだろうか。最初に問題として申し上げたい。

キーワード(生活課題)一覧表に基づき、主な問題点を説明した。

まず、「交流・居場所」では、助けてあげたいが、場所がない。例えば8000世帯で5サロンしかなく、高齢者の集まれる場所がない。これはどこの地区でも同じではないだろうか。

子育てサロンについて、取組みがなかなか難しい、場所の問題、誰が実施するか、実態としてやるのが難しい。

障害施設の閉鎖報告で、親に不安が広がっている。実態を行政が説明しなければ討論できない。

子どもルームに関して、社協と学校の連携が必要と思われるが、隣接市では学校が空いていれば有志で高齢者が集まってお茶を飲んでいる。

千葉市ではどうなのだろうか。

組織上の問題で、民生委員は民生委員、社協は社協、自治会は自治会、各組織、団体の繋がりがなく、バラバラでないか。

学校解放と公民館においても、行政指導が必要ではないか。各機関がすべて入って地域福祉計画に参加しなければならないと思われる。縦がしっかりしていれば横の連携にも繋がることになる。

「身近な生活支援」では、地域の身近な支援として何が問題になっているのか、特に具体的には、母子福祉推進員の仕組みが廃止になっても母子家庭が増えている。代わりに民生委員がやるとしても実際の相談は地域の人が行うのではないかと思うが「触らぬ神に祟りなし」の意識は変えづらい。

「情報・相談」では、個人データの情報守秘義務の問題がある。

「虐待」については、新聞等の報道でよく耳にするが、深刻な問題である。

「サービスネットワーク化」では、複数の団体等で活動する場合、活動しているものがある一方で片方は傍観者になる傾向がある。

「緊急時の支援・防災」では、時間をかけて検討を行った。行政は、4階にいるおばあさんを、どのように救助していくか。すぐに飛んでいく人をつくるべきである。

「幕張・武石地区フォーラム」

地区フォーラムが4月に発足し、これまでスケジュールに従って3回開催している。61件の問題がだされた。これらの問題を整理し、20のキーワードに分類し、最終的には10にまとめたところである。

まず、「交流・居場所・社会参加」では、多くの問題提起がなされたが、主なもので言うと、例えば、民間集合施設の活用ということで、幕張と幕張本郷あるいは幕張1～6丁目の中でも区画整理が進んでいるところ、進んでいないところがあり、公共施設の整備状況も地区によって隔たりがあるので、地区内といっても同一に考えることはできないが、自治会館、金融機関の会議室などの民間施設を有効に活用していく方策を探っていく必要がある。

学校の使用は、無人警備をしているので難しい。高齢者・障害者・児童の共通点がある。気軽に集える場所が不足していることである。場所があれば、交流・社会参加が進むのではないか。地域の心棒がなく、町会もなれない。行政でもない自治の問題である。

次に、「身近な生活支援」では、高齢者、児童、障害者、共通な問題を

行政に頼るだけでなく、住民自身が考えていかなければならない問題である。

「ボランティア」では、何か動こうとしてもなかなか動けない。市との協議も必要であろう細かい所に目の届くボランティアの育成、人材の育成が大切である。

「情報・相談」では、情報が流れてくる時もあるが、詰まってしまうときがある。タイムリーに必要とする人に伝えることが大事である。

警察に電話すると犯罪者が逮捕される。逮捕した情報が保育園、幼稚園、小学校に伝わらない。

ハードの面についての問題点が多くでている。

「花見川地区フォーラム」

どの地区でも共通した問題がでている。

当地区フォーラムにおいても、まだ具体的解決策の検討にはしていない。

解決策が見あたらない、高齢者の孤独死、自殺か病死かわからない警察からのその後の情報が民生委員に届かない全国で3万件ある。

202地区の高齢者70歳以上が現在1750人、対策解決策がなかなか見つからない公園を利用する。責任者がいないと解放してくれない。

福祉教育は最初に必要、愛情をもって育てる。母子家庭が多くなっている。母子福祉推進員いなくなり民生委員が関わるのが負担になっている。

学校の就学援助の実態もわからない、以前は意見書を出していたので実態把握が少しは出来ていた。

どうしたら解決策を出せるか難しい。協力体制はできるが、解決できるとは限らない。

新聞報道で障害者の地域生活整備について時間のかかることが述べており、幕張のトンネルは20年かかっている。

交通の面で足の便が悪い。区役所やいきいきプラザへの足がないバリアフリーお年寄りが自由に区・市役所に行けるようになるには時間がかかるがやって欲しい。

お年寄りが公園で4～5人でビールを飲んで子どもをからかっている。いきがづくりが大切である。

防災時の名簿、プライバシーの問題になってきて解決できない事故があった時の連絡先が民生委員ではわからない。

住記カードに緊急連絡先を入れて欲しい。

学校管理でない避難場所のトイレを増やしたい。

< 取組状況に関する質疑応答 >

特になし。

(3) 委員長，副委員長の選任について

4名の地区フォーラム委員長の中で、話し合いで決めることになった。地区フォーラム委員長4名の話し合いで、藤野委員が委員長を、村藤委員が副委員長として選出され区策定員会の承認を得た。

(4) その他

特になし

< その他質問事項 >

委員：提案した内容は、市の施策にどの程度反映されるのか？

事務局：市では、今後、5か年計画・高齢者・児童・障害者計画などの策定があり、事業化にむけてできるだけ反映したいと考えている。

以上